

□プログラム 2026 年 11 月 8 日 10:30～15:30

	時刻	項目	細目
	9 時	準備奉仕者集合	会場設営・音響機器設置・リハーサル
1	10 時 30 分	開会 祈り	
2	10 時 35 分	賛美① (15 分)	
3	10 時 50 分	メッセージ①	30 分・休憩 10 分
4	11 時 30 分	メッセージ②	30 分
5	12 時	昼食休憩 (60 分)	
6	13 時	メッセージ③	30 分・小休憩 5 分
7	13 時 35 分	質疑応答 (35 分)	
8	14 時 10 分	休憩・準備 (15 分)	聖餐式準備、アンケート記入
9	14 時 25 分	聖餐式 (15 分)	
10	14 時 40 分	賛美② (15 分)	
11	14 時 55 分	祝祷	
12	15 時	閉会	(遅くとも 15 時 30 分まで)

□メッセージ①「信者と罪」のアウトライン (P.2～7)

1. 信者になっても罪の性質は内側にあり、具体的な罪を犯すことがある
2. 信者は、自分の内側にある罪の性質にどのように向き合うのか
3. 信者が罪の性質に従ってしまい、具体的な罪を犯してしまったのに、それをそのままにしておく、どうなるか

□メッセージ②「罪の対処」のアウトライン (P.8～10)

1. 罪を犯してしまったときに、信者はどう対処したらよいのか
2. 罪を犯したとわかるためには、どうしたらよいのか
3. 罪の性質に従わず、新しい性質に従って歩む力はどこから来るのか

□メッセージ③「メシアの律法 ペテロの手紙第一から」のアウトライン (P.11～16)

1. 日常生活での心得 (2: 11～12)
2. 政府との関係 (2: 13～17)
3. 家僕の立場にある信者に対して、その主人との関係について (2: 18～25)
4. 夫婦関係 (3: 1～7)
5. 信者同士の関係 (3: 8)
6. 悪口を言われたり侮辱されたりしたときの対応原則 (3: 9)
7. 信仰生活の目標: 「いのちを愛し、幸せな日々を見よう」 (3: 10～12)

信者と罪

□メッセージ①「信者と罪」のアウトライン

1. 信者になっても罪の性質は内側にあり、具体的な罪を犯すことがある
2. 信者は、自分の内側にある罪の性質にどのように向き合うのか
3. 信者が罪の性質に従ってしまい、具体的な罪を犯してしまったのに、それをそのままにしておく、どうなるか

-
1. 信者になっても罪の性質は内側にあり、具体的な罪を犯すことがある

(1) 使徒パウロの証言：私は罪人のかしらです

I テモテ 1:15 「キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた」ということは真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

- 私はその罪人のかしらです・・・「私」＝使徒パウロ。「罪人のかしらでした」ではなく、信者になったあとも、自分を「罪人のかしらです」と語った。

(2) 信者の内側には、罪の性質が残っている

I ヨハネ 1:8 もし自分には罪（単数形）がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

- 罪（単数形）・・・罪の性質

(3) 罪の性質があるから、信者も具体的な罪を犯す

I ヨハネ 1:9～10 もし私たちが自分の罪（複数形）を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。もし罪を犯し（動詞）たことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とすることになり、私たちのうちに神のことばはありません。

- 罪（複数形）・・・具体的な罪、日々の生活の中で信者が犯す罪

2. 信者は、自分の内側にある罪の性質にどう向き合うのか

(1) 罪の性質を無くしなさいとか、小さくしなさいとか、改善するように、といったことを、聖書は一切命じていない

① 罪の性質は、元々、神が造って人に与えたものではない。よって、聖化の対象ではない。聖化とは、信者をこの世から取り分け、キリストに似た者に徐々に変えていくための神の働き。信者の死の時に聖化の完成の時であるから、信者は、この世では皆、完成途上にある者たちである。

② 聖化の対象は、神が造って人に与えてくださった「霊・魂・心・思考・意志・良心」の6つの要素である。これら6つの要素が一体となって私たちの内側【非物質的部分】を構成している。6つの要素を一言、別のことばで言うと、「内なる人」である。罪の性質は、確かに人の内側に入りこんでいるが、「内なる人」には含まれない。

Ⅱ コリ 4:16 ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

③ 肉体の死のとき、信者の霊魂がその体が分離するときに、罪の性質は信者の内側から消える。いずれ消えてなくなるものを、改善しようとするのは無意味である。もし、信者が自分で罪の性質を何とかしようとしたら、罪の性質はますます暴れて、人の手に負えるものではない。使徒パウロですら、信者になってからそのような経験をした。

ロマ 7:15 私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているからです。

ロマ 7:20 私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。

ロマ 7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

では、信者はどうしたらよいのか。次の(2)へ続く

(2) 罪の性質に従わず、新しい性質に従う

① 新しい性質とは何か

ヨハネ 3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

- 肉によって生まれた者は肉（罪の性質）・・・親から生まれた人は、親と同じく、肉（罪の性質）をもって生まれてくる
- 御霊によって生まれた者は霊・・・人が信じたときに、御霊（聖霊）によって、その人の内側に新しい霊が造られる。これが、新しい性質である。
「御霊によって生まれた」とあるように、神の霊、聖霊によって造られた新しい霊である。

② 新しい性質の特徴は二つ・・・【罪を犯さない】・【汚されない】

I ヨハネ 3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。

- 神から生まれた者、その人・・・新しい性質（霊）
- 罪を犯しません、罪を犯すことができない・・・新しい性質（霊）は、罪を犯さず、犯すこともできない

I ヨハネ 5:18 神から生まれた者はみな罪を犯さないこと、神から生まれた方がその人を守っておられ、悪い者はその人に触れることができないことを、私たちは知っています。

- 神から生まれた者、神から生まれた方、その人・・・新しい性質（霊）
- 神から生まれた方がその人を守っておられ・・・直訳は「神から生まれた者は自分自身を守る」 → 新しい性質は自分自身を守る。
何から守るのか → 【信者が罪を犯したときの汚れ】から、である。
よって、信者が罪を犯しても、新しい性質（霊）は汚されない。
- 悪い者はその人に触れることができない・・・「悪い者」とはサタン。「その人」とは「神から生まれた者」であり、新しい性質である。サタンは、信者の新しい性質に触れることはできない。

- ③ 信者は、罪の性質（肉）に従わず、新しい性質（霊）と内住の聖霊に従って歩む

ロマ 8：4 それは、肉に従わず 御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

- 肉に従わず・・・「肉」は罪の性質。信者は、自分の内側に残っている罪の性質に従わないようにする
- 御霊に従って歩む・・・直訳は「霊に従って歩む」。ここでの「霊」は、新しい性質である。日本語の聖書では「御霊」、すなわち神の霊として訳されているが、ギリシア語原文「プニューマ」の頭文字は小文字、かつ定冠詞もなし。この場合は、神の霊ではなく、人間の「霊」か、新しい性質の「霊」。この箇所は、肉＝罪の性質との対比なので、新しい性質である。
- 律法の要求が満たされる・・・信者が、罪の性質に従わず、新しい性質に従って歩むなら、神の律法の要求を満たすことができる。ここの「律法」は、旧約聖書のモーセの律法ではなく、新約聖書のメシアの律法である。

ガラ 5：16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、肉の欲望を満たすことは決してありません。

- 御霊・・・ギリシア語原文「プニューマ」の頭文字が大文字なので、神の霊を指す。ここでは特に、内住の聖霊を指す。
- 御霊によって歩む・・・内住の聖霊によって歩む、ということ。聖霊は信者の内側に住んでくださるが、信者の内側の中でも、新しい性質（霊）の中に住まわれる。新しい性質は、信者が罪を犯しても汚されない領域である。また、新しい性質はそもそも聖霊によって造られ、信者に与えられたものである。その中に聖霊が住まわれるわけである。従って、信者が新しい性質に従って歩む、というのと、聖霊に従って歩むということとは、信者にとっては同じ歩み方である。

ここまでの確認のための設問

設問 人が信者になる前と、信者になった後とで、違いは何でしょうか？
次の2つのうち、正しい方はどちらでしょうか。

- a. がんばれば罪の性質が小さくなっていき、罪をあまり犯さなくなる。
- b. 罪の性質は残るが、新しい性質を受けており、どちらに従うか、選択できる。

3. 信者が罪の性質に従ってしまい、具体的な罪を犯してしまったのに、それをそのままにしておく、どうなるか

(1) 永遠のいのちは失われない

ヨハネ 10：28～29 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。わたしの父がわたしに与えてくださった者は、すべてにまさって大切です。だれも彼らを、父の手から奪い去ることはできません。

- 信者は、永遠のいのちを与えられた。永遠であるから、取り消されたり、失われたりすることは決してなく、信者自身も捨てることはできない。

(2) 交わりを失う

十字架にかかる前夜の食事の席で、イエスはしもべのようにして弟子たちの足を洗った。これは、弟子たちに互いに仕え合うようにと教えるためであったが、同時に、信者が罪を犯したときの対処について教えるためでもあった。

ヨハネ 13：8～10a ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。

- 水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよい・・・信仰によって救われた者は、全身がきよい。ただし、日々の生活の中で罪を犯すことがある。足が汚れた状態とは、このことである。足を洗うとは、その罪をきよめることであるが、そのきよめは、信者自身には不可能であり、神によって清められなければならない。
- 波線部、イエスがペテロに、「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります」と言ったのは、その清めのためである。神によって洗っていただかなければ、信者は清くならず、神との交わりが回復できない。
- 足を洗っていただくための具体的な方法・・・I ヨハネ 1：9 父なる神に祈り、自分がしたことを罪であったと認める。この祈りをしないで、そのまま放置すると、次の (3)、主からの懲らしめを受けることになる。

(3) 主からの懲らしめ、訓練を受ける

I コリ 11 : 32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

へブル 12 : 4～11 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。そして、あなたがたに向かって子どもたちに対するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。

「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」

訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。
父が訓練しない子がいるのでしょうか。・・・(中略)・・・霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。
すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって教えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

(4) 主からの懲らしめを受けても放置すると、病気、さらには肉体の死

I コリ 11 : 30 あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。

- ただし、肉体の死を受けたとしても、救いは失われない。

I コリ 5 : 5 そのような者を、その肉が減ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それによって彼の霊が主の日に救われるためです。

□メッセージ②「罪の対処」のアウトライン

1. 罪を犯してしまったときに、信者はどう対処したらよいのか
 2. 罪を犯したとわかるためには、どうしたらよいのか
 3. 罪の性質に従わず、新しい性質に従って歩む力はどこから来るのか
-

1. 罪を犯してしまったときに、信者はどう対処したらよいのか

- (1) 自己吟味をする：メシアの律法に照らして、罪を犯したかどうかを振り返る

I コリ 11：28 だれでも、**自分自身を吟味して**、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。

- (2) 気づいた罪があれば、神に祈り、祈りの中で「〇〇したことは、罪でした」と言い表す。

I ヨハネ 1：9 もし私たちが**自分の罪を告白する**なら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

- 言い訳や反省、「二度としません」といった誓いは、してはならない。そのような命令はないからである

参照 申命記 4：2 **私があなたがたに命じることばにつけ加えてはならない。また減らしてはならない。**

- (3) 罪を言い表す祈りをするタイミング：原則は、気づいたらできるだけ早く。

タイミングに関する指示は、2つある。

第一は、日々の中では、就寝前までに。

第二は、聖餐式を受けるとき。

- ① 就寝前までに

エペ 4：26 **怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってははいけません。**

- ② 聖餐式を受けるとき：自己吟味をして、そこで気づいたらすぐに告白の祈りをして、そのあとに聖餐式を受ける。

I コリ 11 : 27～32 したがって、もし、ふさわしくない仕方パンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだ血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで食べ、また飲む者は、自分自身に対するさばきを食べ、また飲むことになるのです。あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきをくだされることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。

2. 罪を犯したとわかるためには、どうしたらよいのか

(1) 罪とは、神の命令を守らなかったこと。では、神の命令を守るとは、どうすることか、申命記でモーセは4つのことを教えた（申命記 4 : 1～2）

- ① 神の命令を聞く
- ② それらを行う
- ③ 神の命じたことばにつけ加えない
- ④ 神の命じたことばを減らさない（省かない）

(2) 神の命令を聞く：神のことばを心に蓄え、みことばを思い巡らす

詩 119 : 11 私はあなたのみことばを心に蓄えます。あなたの前に罪ある者とならないために。

(3) それらを行う：神のことばに従って日々の生活を送る＝光の中を歩く

I ヨハ 1 : 7 もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

詩 119 : 105 あなたのみことばは 私の足のともしび 私の道の光です。

メシアの律法を知ることなしに、罪を知ることはできない
日頃から光の中を歩むことなしに、罪に気づくことはできない

3. 罪の性質に従わず、新しい性質に従って歩む力はどこから来るのか。2 つある

- (1) 内住の聖霊によって信者には罪の性質に抵抗する力が与えられている。したがって信者は罪の性質に従わずに、新しい性質に従うことができる

ロマ 8:8~9 肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちにではなく、御霊のうちにいるのです。

- 肉のうちにある者・・・罪の性質に従う者
- 御霊のうちにいる・・・直訳「霊のうちにいる」=新しい性質（霊）に従うことができる。

- (2) 天の神の御座の前で、イエス・キリストが私たちのためにとりなしてくださっている。このとりなしによって、信者と神との交わりが維持され、神からの力が途絶えない。

ヨハネ 17:15 わたしが願うことは、あなた（父なる神）が彼ら（信者）をこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

ロマ 8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

ヘブル 7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことがおできになります。

内住の聖霊と、主イエスのとりなし
この 2 つによって、
信者は光の中を歩むことができる

□メッセージ③「メシアの律法 ペテロの手紙第一から」のアウトライン

1. 日常生活での心得 (2 : 11~12)
2. 政府との関係 (2 : 13~17)
3. 家僕の立場にある信者に対して、その主人との関係について (2 : 18~25)
4. 夫婦関係 (3 : 1~7)
5. 信者同士の関係 (3 : 8)
6. 悪口を言われたり侮辱されたりしたときの対応原則 (3 : 9)
7. 信仰生活の目標 : 「いのちを愛し、幸せな日々を見よう」 (3 : 10~12)

新約時代の信者にとっての生活ルールは、メシアの律法である。メシアの律法を守れず、罪を犯したと気づいたときは、父なる神に罪を言い表す祈りをしよう (I ヨハ 1 : 9)。

今回は、メシアの律法の中から、ペテロ第一の手紙 2 章から 3 章にかけて記された律法について学ぶ。

1. 日常生活での心得 (2 : 11~12)

I ペテ 2 : 11~12 愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは旅人、寄留者なのでから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。異邦人の中にあつて立派にふるまいなさい。そうすれば、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの立派な行いを目にして、神の訪れの日に神をあがめるようになります。

- **あなたがたは旅人、寄留者**・・・エルサレム教会のユダヤ人信者たちは、同胞からの迫害によって国外に散らされた。まさに、旅人、寄留者の立場であった。ペテロはこの手紙を、そのような国外に散らされたユダヤ人信者たちに宛てて書いた。私たちも、霊的な国籍は天にあり (ピリピ 3 : 20)、この地上では旅人、寄留者である。
- **肉の欲**・・・罪の性質からの働きかけ。私たち信者の霊的戦いの相手は 3 つあり、その第一は、私たち信者の内側に残っている「罪の性質」である。
なお、第二は「サタンと悪霊」、第三は「この世」である。
- **神の訪れの日**・・・神のさばきの日を意味する。寄留者のユダヤ人信者のことを悪人呼ばわりしていた異邦人が、ユダヤ人信者の立派な行いを見て、福音を信じて救われ、その結果、神のさばきの場で神をあがめるようになる。よって、このさばきは、不信者に対するさばきではない。これは、教会の信者を対象とする、キリストのさばき (I コリ 4 : 5、II コリ 5 : 10) である。

2. 政府との関係 (2 : 13~17)

I ペテロ 2 : 13~17 人が立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である王であっても、あるいは、悪を行う者を罰して善を行う者をほめるために、王から遣わされた総督であっても、従いなさい。

善を行って、愚かな者たちの無知な発言を封じることが、神のみこころだからです。自由な者として、しかもその自由を悪の言い訳にせず、神のしもべとして従いなさい。すべての人を敬い、兄弟たちを愛し、神を恐れ、王を敬いなさい。

- 人が立てたすべての制度に・・・各国にいろいろな政治体制があるが、その国の法に従って立てられた体制であれば、「すべての制度」に従うべきである。
- 主のゆえに従いなさい・・・「主のゆえに」とは、従うことが主のみこころだからである。よって、もし政府が信者に、主のみこころに反することをするように命じるなら、信者はそれに対しては従うことはできない。使徒ペテロたちは、ユダヤ議会に引き出され、「イエスの名によって教えるはならないと命じていたではないか」と言われたときに、「人に従うより、神に従うべきです」(使徒 5 : 29) と答えた。
- 愚かな者たちの無知な発言・・・「無知」と訳されているギリシア語の意味は、知的理解がないということではなく、【真の信仰とはどういうものかについての霊的理解がない】ということ。「愚かな」は、理由なく行動するという意味で、ここでは【精神的に正常な判断力に欠けている】人々を指す。
- 自由な者・・・ヨハネ 8 : 36 「子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです」、ガラ 5 : 1 「キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました」 信者はキリストにあつて自由な者である。しかし、自由だからといって、律法なしに、自分がしたいように行動してよい、ということではない。
- 神のしもべ・・・しもべ＝ギリシア語デューロス。旧約聖書では、借金のために奴隷となると、奴隷として 6 年間主人に仕えることになる。そして、7 年目には解放されて無償で自由人となれる。このとき、自由人となって主人のもとを離れるよりも、主人を愛するがゆえに奴隷としてとどまることを本人は選択できる (出 21 : 2~6)。信者が神のしもべになるとは、神によって罪の奴隷状態から解放されて自由となった信者が、自らの選択で神のしもべになることを意味する。

3. 家僕の立場にある信者に対して、その主人との関係について（2：18～25）：現代の私たちについて言えば、雇われて仕事をする場合に適用される

I ペテ 2：18～20 しもべたちよ、敬意を込めて主人に従いなさい。善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい。

もしだれかが不当な苦しみを受けながら、神の御前における良心のゆえに悲しみに耐えるなら、それは神に喜ばれることです。

罪を犯して打ちたたかれ、それを耐え忍んでも、何の誉れになるでしょう。しかし、善を行って苦しみを受け、それを耐え忍ぶなら、それは神の御前に喜ばれることです。

- しもべたち・・・「しもべ」と訳されているギリシア語オイケテースは、一般的な奴隷デューロスではなく、主人の家政（労務管理、事業経営や財産管理など）や子弟の世話や教育などに従事する家僕である。現代の私たちについて言えば、雇われて仕事をする立場に近い。
- 善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい・・・家僕に優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも、敬意を込めて従うことが求められる。
- ストライキや労働争議を起こしてもいいのか？・・・それぞれの国の労働法や会社の就業規則、雇用契約に定められたところに従うことが大切。信者は約束を重んじる。雇用契約に反して、職場放棄などをしてはならない。
- 【補足・私見】
 - 善を行って苦しみを受ける・・・社員の立場においては、法令を順守し、会社の就業規則に忠実に働くことが求められる。上司や同僚が法令違反、就業規則違反をしている場合、信者はそれに同調してはならない。そのために周囲から攻撃されることになったとしても、それを耐え忍ぶなら、それは神に喜ばれることである。
 - 会社ぐるみで違法と思われるようなことをしていたらどうするのか？・・・法令や就業規則で定められた手続きにしたがって改善の糸口を求める。そのような有効な手続きがなく、経営者の個人事業のような状況であれば、争わずに黙って身を引き、転職するのが最善であることが多い。

4. 夫婦関係 (3:1~7)

妻たちに

I ペテ 3:1~6 同じように、妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって神のものとされるためです。

夫は、あなたがたの、神を恐れる純粋な生き方を目にするのです。

あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであってはいけません。

むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。たとえば、サラはアブラハムを主と呼んで従いました。どんなことをも恐れなくて善を行うなら、あなたがたはサラの子です。

- 同じように・・・しもべが主人に従うのと同じように、妻たちも自分の夫に従うことが、主のみこころである。
- みことばに従わない・・・単に信仰を持たないではなく、妻の信仰を攻撃するような夫を指す。
- 妻の無言のふるまいによって神のものとされる・・・妻は口を用いて夫に信仰を持つよう説得したり、懇願したりしてはならない。夫が「神のものとされる」、すなわちキリストを救い主として信じるのは、妻のことばを耳で聞いてではなく、妻の無言のふるまい、神を恐れる純粋な生き方を、目で見て、である。
- 髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする・・・これらのことが禁じられているわけではない。禁じるのであれば、聖書の書き方は、【髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりしてはならない】となる。ここでの命令は、外面的な飾りではなく、内面的な飾りを、信者としての真の飾りとしなさいということ。

夫たちに

I ペテ 3:7 同じように、夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して、妻とともに暮らしなさい。また、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。

そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。

- 同じように・・・妻たちが夫たちに従うように、夫たちも従わなければならない。
従う先は、主である。夫が主に従うとき、夫婦関係において夫は妻の必要を満たすことを求められる。
- 波線部の直訳は次のとおり「**暮らしなさい**・あなたがたの妻たちとともに・知識にしたがって。**尊敬して**・女性たちを、より弱い器なのだから、いのちの恵みをともに受け継ぐ者なのだから。」
 - 知識にしたがって妻と暮らす・・・聖書では「知る」は、性的関係を意味する場合も使われる（創 4:1）。妻と暮らすという文脈上、「知識にしたがって」は、男女の性的関係についての知識である。夫は妻の性的な必要をどのようにしたら満たしてあげられるかについての知識をもって妻と暮らしなさい、と命じている。
 - 妻を尊敬する・・・尊敬すると訳されているギリシア語の意味は、「割り当てる、配分する」 夫が、日々の生活の必要はもとより、妻の衣服や交際のための費用をきちんと渡すことが、妻を尊敬することになる。
 - より弱い器・・・人間は弱い器である。夫も弱い器であるが、妻はそれよりも弱い器であるということ。どういう面でより弱いかと言うと、それは身体的な力の面。したがって、尊敬しなさいという命令の中には、単に物質的・経済的に必要を満たすことだけではなく、妻を守る、大切にする、という意味も含まれる。
 - いのちの恵みをともに受け継ぐ者・・・いのちの恵みとは、霊的に救いを受けて永遠のいのちを受けることである。妻はその恵みを「ともに受け継ぐ者」、夫と同格である。妻は夫の権威の下に置かれているが、霊的な救いを受ける点においては、夫も妻も同じである。そして、復活の体においては、もはや男女の別はない。
- あなたがたの祈りは妨げられません・・・もし、夫が妻を尊敬しないなら、夫の祈りは天の神のもとには届かない。

かくして、夫と妻の関係は、体の面では子どもの出産に、霊的な面では祈りを神に聞いていただけることに、つながる。

5. 信者同士の関係 (3 : 8)

I ペテ 3 : 8 最後に言います。みな、一つ思いになり、同情し合い、兄弟愛を示し、心の優しい人となり、謙虚でありなさい。

- 一つ思いになる・・・意見の一致ではない。一人ひとり、考えや意見は異なる。ここでいう「一つ思い」とは、ハーモニーである。異なる音であっても調和するなら心地よい和音となる。意見を一致させることなく、違いを認め合い、赦し合い、仕え合うという思いで一致することである。
- 同情し合い・・・喜びや悲しみをともにする
- 兄弟愛を示す・・・神の家族として、肉親の兄、弟、姉、妹のように愛し合う

6. 悪口を言われたり侮辱されたりしたときの対応原則 (3 : 9)

I ペテ 3 : 9 悪に対して悪を返さず、侮辱に対して侮辱を返さず、逆に祝福しなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのです。

7. 信仰生活の目標 : 「いのちを愛し、幸せな日々を見よう」 (3 : 10~12)

詩篇 34 : 12~16 を引用して

I ペテロ 3 : 10~12

「いのちを愛し、幸せな日々を見ようと願う者は、
舌に悪口を言わせず、唇に欺きを語らせるな。
悪を離れて善を行い、平和を求め、それを追え。
主の目は正しい人たちの上にあり、主の耳を彼らの叫びに傾けられる。
しかし主の顔は、悪をなす者どもに敵対する。」

- いのちを愛し・・・健康長寿を願う意味ではない。熱心に生きること。
- 幸せな日々を見る・・・豊かな人生を送ること。信者にとって豊かな人生とは、キリストに似た者とされていく人生を楽しむことである。
- そのような人生を楽しむためには、まず、ことばにおいてどうすべきか。次に、行いにおいてどうすべきか。2つの原則が語られる。
 - ことばにおいて： 舌に悪口を言わせず、唇に欺きを語らせない
 - 行いにおいて： 悪を離れて善を行い、平和を求め、それを追う
- なぜ、この2つの原則が大切なのか。その理由は・・・「主の目は正しい人たちの上にあり、主の耳を彼らの叫びに傾けられる」からである。

アンケート

ご記入者のお名前（無記名でもいいです） _____

1. メッセージの中で、よくわからなかった点がありましたか？ もしあれば、どの箇所で、何がわからなかったかを教えてください。

2. メッセージの中で、疑問に感じた点がありましたか？ もしあれば、どの箇所で、どのように疑問に感じたのかを教えてください。

3. メッセージの中で、これは聞いてよかったということがありましたか？ もしあれば、どうということが聞いてよかったかを教えてください。

4. 質問がありましたら、ご記入ください。質問に対するお答えは、原則として 11 月 22 日熊本集会で回答します。もし、個人的に回答を受けたいとご希望されるのであれば、質問の次に、お名前と連絡先（メール・アドレスまたは電話番号）を記載してください。

個人的に回答を受けることを希望する方

お名前 _____ 連絡先 _____

5. 特別集会は年 1 回の開催を予定しています。来年の集会で取り上げてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

6. その他、集会の開催頻度や開催地など、ご意見がありましたら、ご記入ください。